

会議名	令和 7 年度第 2 回 藤沢市中学校給食検討委員会
日 時	2025 年 7 月 30 日（水） 14:00～16:30
場 所	藤沢市役所本庁舎 7 階 7-3 会議室
資 料	添付資料のとおり
議 事	(1) アンケート結果の報告について (2) 中学校給食の実施方式について
事務局	1 開会 資料の確認 出席者数、委員会総数 3 分の 2 以上というところで、藤沢市中学校給食検討委員会要綱の第 5 条の規定に基づいて、本会議が成立していることをご報告させていただきます。 現時点で傍聴の方はいらっしゃいません。 なお、本日ご審議いただく議題につきましては、原則全て公開とさせていただきます、議事録等の会議の開催結果について後日公開とさせていただきます。 本日これに伴いまして、会議の状況を録音させていただいておりますのでご了承いただければと思います。では早速ですが、次第の 2 議題に移らせていただきます。 ここから先の進行につきまして、秋吉委員長にお願いしたいと思います。
委員長	2 議題 (1) アンケート結果の報告について 早速進めてまいります。 まず 2 の議題のところ括弧 1 ですね。 アンケート結果の報告について、事務局の方からご説明お願いいたします。
事務局	アンケート結果の説明
委員長	はい、ありがとうございます。 今資料をご覧になりながら、それぞれの方のご意見と、またその前にご質問があれば先にご質問を受けましょう。 何かご質問ある方いらっしゃいますか。
柳澤委員	中学校の日課は？
委員長	給食時間はおそらく 20 分前後。
事務局	日課について、資料 2 該当部分の記載内容説明
委員長	いかがでしょうか？ 生徒さん、それからご父兄、教員先生方からのアンケートの結果をご覧になって、この会議では、何か決めるということではなくて、皆さんの考え、この結果の報告を受けてのご意見、感想をお話いただけたら。

中澤委員	生徒へのアンケートの Q10 の回答を見てみると、1 番の項目で 50% 近くの生徒さんが給食でそういうことを学んでいると答えてはいるんですが、2 番目を見ると、特にないという生徒が 30% 位いるというところが少し気になるところで、小学校では給食を題材とした食育を 6 年間通して行っていますが、中学はデリバリーで選択制ということもあり、給食を通した食育がなかなか難しいという現状があるので、食べている子が 40% だったのも、食べている子がこうやって答えているのかどうかかわからないですが、やはりお弁当を持ってくる生徒さんは、好き嫌いが多いこともあり、なので家庭から食べられるものだけが入ったお弁当を持参して食べている可能性も高いです。 いろんなバランスで食べなければいけないということや、あと食べる量についても、デリバリーの給食では中学生に必要な量を満たした給食になっているけれども、お弁当は実際学校で先生方は見ているとわかると思いますが、本当に小さい。これで足りるのかなというぐらいのお弁当しか持ってこない生徒さんも多分多いし、そういうのを見てみると、自分に必要な量とか、バランスの取れた食事などを子供たちに指導していくということを考えると、給食は一番良い題材になると思うし、こういうところにそういうのが出てきているというのは感じました。
委員長	私も 10 番目の結果を見て、せっかく 6 年間の積み重ねられてきたものが、少しずつ思春期に片足突っ込んだような中学生たちが給食を通しての食育も受けなくなると、どんどん偏りのない食事という意識から遠ざかっていくのかなということが懸念されるような数字が出たのかと思います。 これは給食を通して知ったこと、学んだことだから食べてない子も答えているのですか？食べている子供たちだけの結果が出ているんですね。食べているのについていうことですね。 おそらく中学校の食育というのが、小学校の食育よりも時間が少なくなっているんですか？その現状がわからないのですが、今回もし全員給食っていうことにしたら、もう少し食育に力を入れやすくなるのではないかという気はしています。 私、実は今日まですごく迷っていて、子供たちが自分の好きなものにしろお弁当を持っていくことを選ぶこともできるという、選ぶことを学ぶということも中学生ぐらいになったら必要なのかなと考えていたのですが、やはり中学まではお弁当か、給食かを選ぶということを決断することを学ぶ、ということよりも、給食を教材にしたり、教材を通してもう少し食育にも力が入れるようになって、この”特にない”というこの 3 割を少しでも減らせたら良いと思ってきています。
加瀬委員	給食に関しては食育だよりを出していただいているので、それで中学校の方では放送とか掲示で周知をしています。 それで私もそういうことだったと思うのですが、中学校の昼食時間はあまり喋るところではないけれども放送をどれだけ聞いているかというのは、確かに耳だけの情報でどこまで入るかというのは、気にはなる所だと思っています。一応情報は伝わっています。 1 年生の家庭科の時間に栄養のことを学習し、1 年生のところに私も入ったことがあり栄養素として今時期どの栄養素が必要だ、など詳しくやって子供たちは小学校の食育の成果だと思うが、よく理解しているので、その基礎の知識としてはとてもあると思うのです。中学校になってちょっと恥ずかしいとか、自分の気になっている体重を減らしたいとか、野菜とか嫌だという、そういう

金田委員	好き嫌いが出てきたり。子供たちが持っている知識というのは、とても豊富だというのを感じました。 Q4の家庭弁当を用意してくれるから、は結構受身であえてどうしても家の弁当をと言っているわけでもなく、用意されているからそれを持っていったという、食に対してあまり意識を持って過ごしてないのが現状なのかなと思います。 親としてはいろんな事情があり、だからそんなことをちゃんと子どもと話す自体もあまりなく、お弁当を持たせているかな。と。 考える機会がもう少しあるといいかなと思いました。
委員長	食についてもっと関心を持つであるとか、食に関する、食を媒体にコミュニケーションがもう少しとれているとよいと思いました。 そうするとなおさら共通の給食でも、忙しい中 15 分から 20 分の給食時間の中で 30 秒でもいいから今日の給食の、これはというような一つのメッセージが流されるだけでも共通の給食というものがあると、今よりも食育の幅が広げられるかもしれません。
東海林委員	中学校現場で自分担任をしていないときに、本校だと朝のホームルーム読書の時間でこのアンケートを実施したので、自分自身がここにずっと付きっきりでいたわけではなく、周辺の職員とか、あとこれも雑談の中で聞いたりした感想になってしまうのですが、先ほどの Q10 の質問項目なのですが、そもそもこの時間で、何かを学習するっていう意識が、給食の時間に学習をするという意識が今の中学生にほぼ無くて、これは何？っていうふうな質問が結構あったので、ご飯を食べているというその給食時間のときに、この中であったらどう？って本当に何もなかったら特にないいいよ、みたいな返答で答えた職員もいるぐらいだったんですね。 なので、バランスのとれた食事をする大切さというところに関して、デリバリー給食のところで学んだとかというわけではなく、食べているその時間で何を学びというふうにとったらいんだろうと考えた結果として、家庭科の授業のことも踏まえて、これを選んだ子も結構いますし、本当に単純にそういうことを考えてないから特にないい、または、この中で学んだではないけれど、みんなが今、グループになって食べられることもだいぶ当たり前になってきた中で、食べることの楽しさというのがあるよねと言って 3 番を選んだ子もいると思うので、なので、デリバリー給食のことだけでこの項目が選ばれたというふうにとると少し心配だなというところはあるかと思うんです。 でもそれと同時に、確かにこの給食時間が食育として栄養価の話とか、季節の食べ物の話とか、ということ、と言うのであれば、中学校現場ではそこがあまり広く深くはないかと言うと、そうかなとは思うのですけれど。 でも、食べ方が汚いとかそういうのがあったらもちろん話をするときにはありますし、そういうのもあるので、その栄養以外の部分での食育とかそういうのはあるのかなとは思いますが。それを食育というふうに当てはめていいのかと思う所はあるのですが。
委員長	それはいいんじゃないかと思うんですよね。食育っていうのはその栄養素の話とかだけじゃなくて、食べるという行動、行為を通して、マナーであるとか姿勢であるとか学びであるとか。食文化、文化を学ぶとか、もう少し広く食育っていうのを広く捉えていいと思うんです。

東海林委員	1 番 2 番 3 番のところが並んだのが多分そういう理由じゃないかというふうに本校の子たちとか職員の話を聞いて、特にそう考えたところがあります。
委員長	給食を通して誰かとそれを話題にして、コミュニケーションを取ることができればもうそれも食育ですね。
東海林委員	そうですね、1 人で食べているというだけでなく、やはり何人か集団で食べるということは楽しいよねと。それが食べ物の話題でなくても、そこで喋れることの楽しさや、一緒に時間を共有できる楽しさなどというのを感じて、3 番を選んだということはあるのかなと思いました。
委員長	他に、いかがですか。
柳澤委員	思ったより家庭でつくったお弁当と半々だなと。 子供たちの目線で言えば、食べることが食育となく、ただ出されたものを食べているんじゃないかなというのがちょっとあるのかなと。 何か子供たちが興味を持つような給食があると良いのかなと。女子であればダイエットとか、男子であれば筋肉量のためにはなどのテーマが給食であるともう少し増えるのでは。 おかずの温度とか、そんなに気にしなくてもいいのかなと思っていて。なぜなら、自分で持ってきたお弁当は温度など関係ないではないですか。
委員長	お弁当を自分で持ってくれば気温が低ければ冷たいのが当たり前ということですね。それが給食となると、そこまで要求が高くなる、ということですかね。 今のところ半々ということですが、全員が食べるようになったら喫食させたい親御さんも随分いらっしゃいますよね。だから、ニーズはあるのかな。 給食を選んでいない理由も給食が嫌だったからとかそういうのではないですよ。子供たちの理由も。だからこれが全員給食という流れになると今よりも積極的に給食を食べることと思うんです。 みんなの気持ちもいやいや選択させられるのではなくて、選択したいという気持ちが強くなった上での給食を食べることになる可能性があるなと思いました。
東海林委員	保護者のところの 3 つ目の質問なのですが、質問の項目がそうだからというのもあるのですが、回答の 7 番と 2 番と 3 番あたりは、おそらく現状のとかでというよりも、6 番もそうかもしれないですが、システムとか味とかではなくて、システムの方が変わったらというような、環境が変わったらみたいなものになるのかなと思うと、現状デリバリー給食になっていますが、デリバリー給食の締め切り期限とか、払い込み方法が変わったら、その 3 5 % ぐらいの方々は、このままでいいですというふうになるのかなと考えたら、一概に給食だから良いとか、弁当だから良いとかという話でもなく、どう変わるかわからないかにせよ、現状のシステムのところにもう少し話が行くことになるのかなというふうに思っていて、特に現場では 2 番の給食時間が長くなったというの、多分大人も本当に単純に思っていることなんだろうと思うので。 今回のその方向性はどちらになるだけではなく、学校現場の方にも多少なりの変化や、給食課の方にも多少なりの変化など別の意味でも必要となってくるのかとこれを見ていて思っていて。 ただそうすると、これから派生して、例えば中学校の日課表を変更だとか、そういった検討をして、というような話を持っていくということになると、少し

委員長	現場としては、どういうことというふうになりそうだなと思うので、そこも今後検討事項になるのかなという、少しそこのところが気になりました。 大筋は給食賛成となったとしても、実際の運営の仕方次第で、少し首をかしげたくなる方もいるでしょうし、現場の先生方は学校経営というか、教室クラス経営ですかね、あらかじめ丁寧な説明も必要だろうし、予想できる問題を一緒に話し合っていく中で決めていくという部分も、もしかしたら必要かもしれないというようなことも含めて、いきなり決めましたからこうなりますという方法ではないとは思いますが。
東海林委員	何もなくなったら、給食の方がこう変わりましたというのだけ聞かされたら、多分そうなんだ、で終わる方も職員の中に結構いるかなと思うのですが、給食の形が変わります、何が変わりますのでそれに伴って、例えば日課表が変わります、何か変わりますなどと言われたときには、また違う反応があると思います。 なのでそこで、もしもその前者の言い方をされていて、後になって日課表も変えないといけないであるとか、何かを変えないといけないので、現場も変えていけないといけないですね、こういう仕事が新たに入るのですよねというふうになると、また少し良くない印象ということになるんだろうなと思うので、それも含めて、もう大丈夫だとか、そういう説明できますね、であるとか、そういったことを元にして、念頭において話してもらった方がいいかなというふうに現場としては思っています。
委員長	方針をバーンと伝えるだけではなくて、そこに至った経緯であるとか、そういうふうに進めたら、こういうようなことを考えていかなければいけない、変えていかなければいけないという所を、ある程度推測、予想をして、どういうふうにしたらいいか一緒に考えていく形にするのか、こちら側でどこまでできるかという現実路線とのすり合わせもある程度ここあたりで、というのが決まってきたらそれをどうやってお伝えしていくかも必要だということですね。 おそらく先生方の回答率がもしかしたら一番低いかもしれませんが、食育にある程度関心が高い先生方がお答えくださったのかもしれませんが、このクエスチョンの最後のところを見ると、食育の目指すところをある程度考えてくださっているのかなというのがわかるようなお答えをいただいているような気がします。
東海林委員	職員の一つの質問でその他の項目の書き込まれている内容が気になりました、料金や、申し込み方法、支給される子どものことなど、現場の素直な働いている身からの声だなというような、この三つなどは見て思います。まずこの食育というよりも、食育なのですが、給食の時間がとりあえずちゃんと済むように、保護者との間にもトラブルがないように、というところと、そのときに料金の安価はそれによってまた少しニーズが違うと思うのですが、やはり現場にいて申し込みができていなくて子どもも食べるものがなく、だからお金持ってきましたというようなトラブルであったりとか。 あとは給食費が支給されるというのを知らないから、これを説明するところから始まるという時間が、きちんと成立するようにというところを求めている声とか、こういうことをというふうに思っているっていうものもあるのだなと思ったので、そこが気になりました。
委員長	この上位二つの下の部分ですね。

東海林 委員	そうです二つ目三つ目で一番下の食器での給食にして欲しいは生徒の方なのかな、保護者の下の方にあった食べやすい容器という話のところに繋がるんだろうとは思うのですが、多分子どもたちを見て、そのあと保護者の対応している中で、給食によって今これがあればという、現状のデリバリー給食選択制の中で、ここを改善するとありがたいという声かなと。
委員長	小学校と同じような食器が揃った給食を希望されているというご意見ですね。
東海林 委員	容器を変えて欲しいということなのかなとは思いますが。 生徒の方にもありました、水滴がつくと滑ってこぼすとかそういったトラブルなどもあったり、開けてみてくっついていたりとかもあるので、容器を変えていただいて、より食べやすくしてもらえたらということなのかなというふうに捉えたところです。
委員長	要望として容器の改良かなという。もしそういう方向になったら、さらについていう。 いかがでしょうか、皆さんご発言いただきましたでしょうか。 説明の中で弁当というか給食を希望する生徒が増えているというようなことがあるので今回の検討等に至っているわけですが、そういった現状に対して給食が嫌だからお弁当持ってきているというところでもない、そういう状況ではないのではないかなというのが今回の生徒さんこのアンケートから確認できたことがまず一つですね。 それから、給食に対しては美味しさであったりそれから温度であったりということ、とにかく美味しいものが食べたいよという要望があるということと、先ほどお話が出た容器に対する要望であるとか、先生方の1日の組み立ての時間、配分との兼ね合いがどうしてもネックになってきてそこを事前にクリアできるような形で進めていかないと、ことは進まないんだなということが見えてきたというところなのかなと思いますけれども、漏れてないでしょうか。 食育の話になると、栄養バランスのことだけでなくみんなで食べること、コミュニケーションの育ちであるとか、それから地産地消、地元が一番近いところでどんな物が作られているであるとか、食文化のことであるとか幅広く1日30秒の給食を題材にした食育が今よりも充実することができれば、1週間のうち5日間ある給食、それで年間にすれば、かなりのボリュームを今よりも共通した教材で、子供たちに届けることができるっていうメリットもあるんじゃないかと私は個人的にも考えています。 その他、給食のメリットとしては安全であるとか、それから荷物が軽くなって良いであるとか、そういったことも出てきていたなというところでした。 何か付け加えることとか、なければ次の議題の方に進めさせていただきますね。 二つ目の議題は、中学校給食の実施方法に形態ですね、どういう形方式で進めていくかということですが、この資料に基づいてまた事務局の方からご説明ください。
事務局	(2) 中学校給食の実施方式について 資料2に基づき実施方式について説明
委員長	近隣他市の状況についての説明がございました。

	また、前回のこの会議で皆様からお話が出ていました食缶方式で実施している学校の日課や食育に関する市の考え方についての説明もございましたけれども、一つ目の議題のアンケートの結果も踏まえて、皆様方のご意見やご質問ありましたら、忌憚ないところで発言いただければと思いますけれどもいかがでしょうか。 全員給食がいい、選択がいいかであるとか、後ろの方の写真付きの資料の最後のところに選択生徒全員喫食の特徴を比較した表がございます。 そういった表を参考にあるいはデリバリーか食缶かというのは、ちょうど資料の真ん中あたりの、県内他市の状況の実際に写真がついたものの資料の次に付いているメリットとデメリット、食缶方式でデリバリー方式一括できるようなまとめをしてくださったようなもの、そういった総括的な表を特に参考にされるなかで皆様方のご意見、ご質問は事務局の方でご回答いただけるかと思えますので。
近藤委員	一ついいですか 県内他市の状況が写真も一緒にたくさん紹介してもらってとてもわかりやすかったです。そのなかで、相模原市が食缶方式とデリバリー方式の両方をされているようなんですけど、理由がわかれば教えていただきたいなと思います。 例えば、食缶であれば 2 時間以内っていうところがあるので、立地的な問題で 5 校なのかなど、教えてください。
事務局	補足します。併用しているのは、現在移行期間としており、相模原市自体は全部食缶に変えていく方針です。デリバリーを 30 校やっているのですが、センターをいくつか作って、食缶に変えていくというところで、今とりあえず併用しているところです。この後デリバリーがなくなり、センターが増えて置き換わっていくという過渡期になっています。
委員長	センターだけになると相模原市は何食くらいになるのでしょうか。
事務局	センターだけで約 1 万 7 千食ぐらいではないかと思えます。
委員長	選択制にするか全員制にするか、原則給食にするか、というところを考えて、その中身を決めるか、中身がある程度現実的なところで制限されるというところで考えるのか。 考え方としては、選択制にするか、デリバリーにしる、食缶方式にしる、全員給食にするか、今まで通りデリバリーと家庭からお弁当を持ってくる選択制にするかという辺りを少しご意見いただけないでしょうか。
加瀬委員	中学校給食なのでちょっと中学校現場の意見を聞きました。 19 校集まる場があったので様々な意見を聞いたんですけども、そもそも全員給食じゃなきゃいけないのかという意見は基本ありました。 将来的に無償化していくという中で、こういう選択をしなきゃいけないとなったときは仕方がないんですけども、十数年前に藤沢市で給食がスタートしたときには、中学校には迷惑をかけないようにしたいっていうスタイルでスタートしたという、そのときの考えを大切にしてほしいなっていう意見が結構ありました。 その中で、もし致し方なくというかも無償化になり、給食となった場合には条件的にいろいろなものが出てくるだろうと思っています。そうしたときに先ほどいろんな学校の日課が出てきましたけれども、給食の時間が増えるとして、終わりが 16 時ぐらいになると冬場は 17 時最終下校となると 1 時間の中

	で、運動部は何ができるのだろうか、という意見が出ました。今はデリバリーなので何とか時間内に収まっているが、食缶方式になった時に、学校の構造上の問題で食缶を運ぶときに運びきれない、エレベーターで全て賄えないときにどう運ぶのか、事故は起きないか、溢さないのか、それからその食缶からよそよそきの時間でプラスアルファ必要時間が増えるのではないかという意見などから、現実的じゃないよね、という話が出ました。 無償化になったらしょうがないけれども、もうちょっと藤沢市の最初の理念を大切にしたいな、という意見がありました。
委員長	ありがとうございました。前回から今日までの間にご意見を少し集めていただいてということ、ありがとうございます。 給食を始める時に、学校には迷惑をかけないという藤沢市の理念というところを少し詳しく教えていただけますか。
加瀬委員	そもそものところははっきりと分からないのですが、選択制という家庭のお弁当を大切にしたいっていう人もいたので、選択制というのが良かったのではないのでしょうか。確かになんで給食じゃないのっていう保護者からの意見が多々ありましたので、この選択ができるっていうのは確かに良かった、それから、中学校のスケジュールはかなり密なものがあるので、そこの中にさらに給食の制度が入って色々な日課をずらして負担をかけるよりは、デリバリーだったらまだスムーズに入れるかな、というところでスタートしたのではないかと思います。
委員長	これは何年前のことですか。
加瀬委員	平成 26 年、2014 年頃のお話です
事務局	補足いたします。 導入時もやはり日課の問題があり、そういう時間を短縮したいという意見に対応するため、今中学校給食は全て配膳員という職員がついて、各クラスの近くまで運ぶ運用になっています。なので、導入当時も学校の日課をどうするのかというところをまず 2 校で試行し、これならいけるねとなったなかで全校に広がっていったという経過があります。
委員長	教室の近くまで、この 2 社の配膳員という方が持ってきてくださるという形ですね。
事務局	他市町村も食缶方式も含めて、時間を短縮するためについていうことを色々考えており、教室近くまで食缶を運ぶところもあれば、配膳室 1 ヶ所に食缶等を集めて生徒が取りに行くっていうスタイルもあったり、そこはもう市町村によりまちまちです。 基本的には先ほど日課のところでお見せしましたが、食缶にすると平均で大体 55 分から 60 分ぐらいかかるのと、デリバリーだと 45 分ぐらいの日課でできるというメリットがある、というのはあります。その代わりに、おかずが冷たいというデメリットがあるので、時間と温かいというところの、そのどちらを取るのかというのが議論のひとつになるかと思います。
委員長	その状況は 11 年が経過してますけれども、学校サイドとしてはその時間がこれ以上伸びてしまうというのはもう不可能という感じでしょうか。

加瀬委員	1 時間目が早い学校が他市だとありましたね。 川崎の学校は 8 時 40 分開始、朝のホームルームもするなかでこの日課が可能なんですね。
東海林委員	川崎のところは、藤沢の学校が今も多く取り入れている朝読書の時間がなかったり、やっぱりちょっと違うところもあると思うんですね。 朝の出勤時間が大幅に違うのもそうなんですけれども、A校は 8 時 10 分職員出勤というのにも正直言ってビックリしまして、そこが難しいなと思いました。僕も現場の先生とかからも話は聞いて、給食の形が変わっていくっていうところに賛成の方や仕方ないんじゃないっていう方も結構いたんですね。やっぱり食育っていうものを大事にするべきだよっていう先生だったり、温かいご飯が必要だよっていうふうに声を上げさせてくださる先生もいたんですけども、多くはやっぱりここからさらに変わるのかっていうところで、必要なのっていう声がすごく多く、ある先生は 5 分の捻出でさえも正直もうキツイと思うっていう話がありました。 それがイメージで湧かないよ、というところであったりとか、我々も大変だけど子どもたちもやっぱり大変なんじゃないかと。仮に小学校と同じ食缶だとして、慣れているっていうのはあったとしても、それだから中学校にもやれるでしょって言ったらそうではないと思うっていう意見がありました。 本校だと、北と南で校舎が 2 個あるんですけど、片方にしかエレベーターがないので、そこから反対側まで運ぶっていうので同時に給食ができるのかっていう心配があります。一番遠いところが 1 年生なんですけど、一番慣れておらず一番バタバタしている学年がそれを担うっていうのは、どうなんだとか、あとはやっぱり清掃の時間とかも増えたり減ったりとか様々あると思うんですけども、そういった全てをこの給食っていうもののために全部動かすのか、全部変えるのかっていうのとかもやっぱり声としてはあって、正直朝読書っていうのも本校の場合だと今時間を 7 分とか見てるんですけども、もっと欲しいと。本当にそこを削ってまでホームルームの時間とか子供の移動時間とか、休憩時間として確保しているものを食育とか給食の時間っていうもののために、他のところが簡単に変わるのにここは入れ替えられないっていうふうになっている現状もあるので、そういう日課表を変えるっていうのは結構相当なことだと思うんですね。 ただ、自分は給食を食べる時間がこれだけ今回アンケートで、保護者も生徒も短いって言っているところに関しては注目をしていくべきだと思いますし、そこは各校検討とかっていうのはあっていいのかなと思います。 それ以外のところとなると、やはりかなりちょっとつらいっていう声があったなっていうのは事実です。
委員長	お二方からの意見とすると、子供たち自身はもう少し時間をかけて食べたいというところには、5 分延長ぐらいの範囲での改善の余地があるのかなと思いますけれども、それ以外の部分を動かしてまで食缶で全員給食っていうようなことは、今とても考えられないっていうようなことでしょうかね。 選択制か全員制か、選択制の良さに重きを置きたいというお考えの方ももちろんいらっしゃると思いますし、給食をどういう方式、形態にするにしろ、全員給食というふうにするか、というあたりをまずご意見いただけないでしょうか。それに付随して、デリバリー、食缶というのを付け加えるような形にしたいいただいて選択制、全員制のご意見でいいので、迷っているっていう意見でも良いです。
金田委員	多分いずれは全員になるであろうかなと思います。

	だけど、今は選択制にしておいて、よりみんながランチボックスでの給食がよいねって思えるようにしていく方が先なのかなと思いました。 そのあと喫食率が上がっていったら自然とみんながランチボックスでの給食良いよねってなって全体に導入なっていくと抵抗感も少なくなっていくのかなと、話を聞いていて思いました。 いろんな市町の状況ありがとうございます。伊勢原市の再加熱方式がすごく良いなと思いました。結構みんな子どもたちからおかずが冷たいという声が多く、もし全校この再加熱のデリバリー方式で、選択制のままで導入できて、お弁当温かくて美味しいよねってなって、そのうち全員になっていくと結構スムーズにいけるんじゃないかなと理想が今あって、これ実際再加熱方式ってどういうふうに運用しているんでしょう。
事務局	伊勢原市の生徒数でしか正直できないというのがあります。 再加熱方式となると大きな機械を配膳室に入れる必要があって、藤沢市の中学校の配膳室って大きくなくて、それを入れてさらに生徒数も多いので、それを全部回しながら出していくっていうのは絶対時間に間に合わない、と考えると藤沢市の場合だとちょっと現実的じゃないかな、というのが正直なところです。
委員長	食数が全員になると1万食分ということですよ。 そうすると、今のデリバリー給食で最大のキャパで5,000食ぐらいですと、残りの5,000食をセンターで賄えるかどうか、というのは大丈夫でしたっけ。
事務局	大丈夫です。
委員長	大丈夫ということですね。 全員給食にしても、ランチボックスでの給食を選ぶ形になり、それが学校で決まるということになるんでしょうか。
事務局	検討資料の最後がわかりやすいと思います。 選択制の場合はデリバリー方式で、新しい給食センターを検討しているのでそれを建てたら6,000食ぐらいまで出せるので、選択制で1万食確保する必要がないならば、そこ一択にして、調理委託の方はやめるというのは一つの方向性としてはあるかと思います。 ただ無償化っていうのがあって、無償化になったらみんなもう給食をほぼ選ぶよねっていうなかで、どうなのかっていうところが議論の一つになろうかと思います。
金田委員	無償化だけど、自分ちの弁当にしたいですっていう選択制を可能にするのであれば、それが一番皆さんの思いはそのままいけるようなところなのかなって思ったりしています。
事務局	国の方でどういう形で無償化をやるかというのが全然見えておらず、他の市町村で無償化しているところだと給食を食べられない子がどうしても出てくる、例えばアレルギーとかであったりというのがあるので、そういう子にはお弁当代という形でお金を給付している市町村もあります。 そこについて国が実際に無償化しますよという時に、国の政策としてそういう形までやるかまではちょっとわからないです。

	他のどこか鹿児島か何かの市町村だと実際に選択制にしている、無償化にします、食べない子でお弁当の子は全部給付します、というようにしているところも一部あります。
加瀬委員	実際、小学校が8年度からの無償化で、今も多分給食がアレルギーで食べられなくて、弁当という方もいらっしゃると思うんですけど、現実的にそこはというようになったら、中学校も小学校と同じようになるんでしょうか。そこは議論されているんでしょうか。
事務局	ちょうど国の方で多分議論していて、一応8月中に国から何かしらの方針が示されるという報道がされているところです。
金田委員	地域によっては宗教的に食べられない子が多い地域もあると思います。無償化でのそのあたりの対応が分かるともう少し検討しやすいですね。
委員長	その辺を見据えて検討しないと難しいですね。
事務局	もしかしたら8月に国の方針が出るというような報道もあったので、次回3回目の検討委員会で、もしかしたらその辺もお示しできるかもしれません。
近藤委員	原則給食っていうのは、何を捉えていますか。
事務局	原則給食は何かというと、今藤沢市の小学校は原則全員制で、食べたくない子というのは、選択肢としてないのですが、原則給食っていうのは例えば、横浜市とかは全員制になりますが、原則給食と言って、それは食べたくない子は注文しないということです。基本、給食が出るんだけど注文をしたくない子は注文しないという選択肢があるというのが原則給食です。
近藤委員	お金はどうなるんですか。
事務局	取らないです。
金田委員	基本的には全員だけど食べない選択もありというのが原則給食ということですか。
事務局	そうです。逆選択みたいな感じです。
副田委員	全員制の中に原則給食なんで、選ばない人もいるということですか。
事務局	そういうことです。
副田委員	3つじゃなく基本選択と全員、そのなかの全員の中に全員が食べる小学校みたいなパターンじゃなく、選ばない人もいるパターンもあるということですか。
事務局	選ばないという選択肢を作るということです。
副田委員	そうすると、大きくは2つですよ。
事務局	そうですね。大きく選択制っていうものと、全員制と原則っていうのがあり、資料2の最終ページの表はまたはというふうになっています。

中澤委員	今の藤沢市中学校の選択制というのは、給食を毎日食べる食べないとかではなく、好きな献立だから食べる、好きじゃないから食べないという、もう何でも選べる選択制なんですけれど、全員制か原則給食というのは、この日は食べるけどこの日は食べないとかではなく、給食を食べるのか食べないのかという選択になるので、考え方が全然違います。
事務局	そうですね。原則給食の場合はもう食べない選択肢は絶対食べないので、何か手続きとして申請をしてもらって、それをもって給食を出さないということになります。
中澤委員	年間を通して食べないか、もうずっと食べるかという、今みたいにこの日食べるこの日食べないではなくという選択になってきます。
金田委員	選択制にして、食育をぜひ伝えたいときのメニューはコレです、というような日があってその日が多くなって、食べる子も多くなるとかすると、何かその方が食育の部分をちょっとカバーができるような感じがします。原則給食で食べないという選択肢とかは全くそこは欠如していつちやうかなとも思います。
中澤委員	一応考え方として、多分全員制にして、食べないという選択をする子は、少数派なんです。本当にアレルギーで食べられないとか、偏食がすごくて給食が食べられないとか、宗教とかあるけれど、食べるが基本になるので、食べないという選択をする人はすごい少数派になると思うので、食育をする上でも、全員食べているっていう前提のもとに、食育とかできると思うんですけど、今の選択制だと食べる食べないがもう誰が食べていて誰が食べないかがもう全くわからない状態で指導していかなければいけないので、全員に向けて今日の給食は、という話をしても、半分ぐらい食べていて半分ぐらい食べてないとか3分の1食べていて7割食べていないとかっていう、そういう違いがもう教室によって多分あるので、継続した給食を題材とした食育というのは、今の選択制では進めることは多分不可能だと思うんですけど、全員制になってそれが原則給食になったとしても、基本食べてる人が多ければ、もうみんなが食べているという前提のもとに、毎日の今日の給食にはこういうものが入ってますよとか、地産地消でこういうものを使ってますよというのをしても、多分学校的にも問題はないのかなというところがあります。
近藤委員	中澤先生が言われるように、本当に小学校は全員が食べる前提にあるので、食べない、食べられないご家庭に対する対応を丁寧に行っています。 アレルギー面談もそうですし、宗教上食べられないというおうちも含めて面談をしたりしながら、栄養教諭の先生などを中心に対応しています。今後、中学校が原則給食とした場合、「食べない」とする理由は何でもよいとするのか、どなたがそれを管理し対応の窓口となるのかとか、イメージがあれば教えていただきたいです。 今の中学校のシステムや日課など、学校ごとに様々な環境や状況の中で、スムーズに導入できる方法がよいし、中学校における食育を考えると、この機会に原則給食のようなルールで導入することもよいかもしれません。みんなが同じ給食を食べることが日常になり、食べない選択肢があることもよいと思いましたが、その管理や対応を中学校のどなたが行うのか、行えるのかと疑問に思いました。

事務局	結論から言うとそれはこれから考える形になるんですけど、やり方次第だと思っています。 例えば隣の市町村だと、基本的に中学校の方であまりアレルギー面談をしてなかったりというのがありますし、結局アレルギーなどの拾い方というの、例えばシステムを入れたりというの考えられますし、これから検討しなきゃいけない部分だとは思いますが、それでも全員制であっても結局新しく給食センターを建てるにあたってアレルギー対応ということを考えていかなきゃいけないので、どのアレルギーに対応していくのかということも課題があります。それはこれから事務局の方としては考えていくことかなと思っています。 ただ、やはり結局それを小学校と同じように中学校の先生たちにも求めていくのかというと、やってきていないという前提がありますので、それをやってもらうというところはなかなか難しいので。でも絶対窓口にならないといけないことがあるので、そこはすみ分けしなければいけないと思っていますが、それを全部中学校に任せてというのは事務局としては全然考えていないということです。
金田委員	保護者として、全員制だけど原則給食と言われたときに今の選択制と原則の違いはすごく混乱するような気がしています。例えばお医者さんから駄目と言われていたりとか、そういう線引きがある人が原則給食で選択しないというふうになるのか、子供が食べたくないと主張したらそれを受け入れていいのかとも、多分保護者もすごく戸惑うと思います。なのでそこをどういうふうに伝えていくのか、でもやっぱり全員制の方に流れていくとなると、原則給食というところが実際にできそうな妥協点かなと思ったりします。 その子にとって宗教などによって食べられないものなどの線引きをきちんと決めて、その辺をしっかりと保護者に発信して、選択制とは違うというところをちゃんと説明し、フォローもしっかり丁寧にしていかないと保護者も混乱しちゃうかなと思います。食べなくても良いと思っていたというような人もいるのかなんて思います。特に今選択制で、仕事の日だけ選ぶとかっていう利用の仕方をされている方もいらっしゃるので、説明をきちんとして、それができていったら、導入できているのかな、と思います。
委員長	選択制だと日によってということですけども、1ヶ月ごとに申し込むとか1年ごとに申し込むというのも地域によって違いましたよね。
金田委員	今は在籍期間中ずっとという、ずっと予約というののもあって、私はずっと予約にしている、あとメニューごとにも選べます。今すごく保護者としては自分の都合のいいように選択できるので、保護者としては結構ありがたい制度でやらせてもらっているような感じはします。面倒くさい、難しいと思われる方もいるけれど、それがすごくありがたいということもあって、子どもが唐揚げのときは絶対頼みたいとかすごく楽しみにしている子もいるので、楽しみにしている給食としては、あるのかなと思います。
副田委員	色々と考えている中で、先ほど中澤先生が言われたような食育の観点からすると、さっきのアンケートの生徒の結果に「特にない」というのがあったじゃないですか。 給食を食べている生徒で「特にない」が出てくるということはやっぱり今のところまだ食育は足りてないわけじゃないと思うけれども、今の選択制を10年

	近くやってきた中で伝わってない部分も正直あるのかなと、というのはちょっと感じるところはあります。 じゃあどうするのかというと、確かに全員制の方がいいのかなと思うけれども、先ほどから中学校から出ている方が言われているような課題が結構大きいので、その結果として中学校現場に負担がかかるような、日課表をかなり変えなきゃいけないとかどうしても何か変えることは多少の負担はあるけれど、その負担が大きすぎてとてもじゃないけれども賄えないという状況を、給食だけで生み出してしまうのも苦しいかなというのは強く思うところです。 だけれど、やはり食育を発展させたいという栄養側の視点も大事だと思うので、そこも十数年前のということもわかるんだけど、やはり十数年経ってこれでもまだまだ足りてない部分もあるということも多少は考慮しなきゃいけないのかなとは思っています。全員制なのか、原則給食も考えた方がいいのかなと、ちょっとまだ僕もどれが、というのが難しいです。
東海林委員	この今選択制か全員制か原則給食かというのを方向性を定めたとして、現場としてそれをスタートさせるというのが、明確にいつというのが正直今自分の中で分からなくなっていて、センター稼働が令和 11 年度だったと思うんですけども、そのときに原則全員制ってなるのか、現選択制のままいきますよっていうふうに公式に言うのかというの、それによっても違うなと思っていて。 というのも、無償化が 100%では正直まだない状態なので、11 年度のときに無償化になっていけば全員制というのは確かに給食費も掛からないからという話になると思うんですけど、まだわからないけれど未来そうなると思うから今から皆さん全員給食ですとなると、今までお弁当の方でいろいろやりくりしてた人たちはみたい、そっちの反発もあるのかなと思うと、まだそこがわからない状態だったら原則給食という言い方がいいのかなと思いつつ。ただ同時に、他市で原則給食というのを言っているところの、もしあればなんですけど、原則給食でうちは給食にしませんと言った家庭が買えるチャンスはもう年 1 とか何かの単位であるのでしょうか。それともないのでしょうか。その流れの中で、いつか給食費が無償化になったその半年後とか出来るのであれば、半年に 1 回はそのタイミングで全部給食にしますと言えるし、例えば極端な話、3 年間卒業するまで 1 回選択したらそれは変えられませんかとなるのであれば、その後に無償化が現実になったときには、え、となるし、なのでその時代の流れのところで言い出すタイミングのところでも、まだこの方向性でというのはちょっと悩んでいて、正直全員制か、選択制かの 2 択のあたまでいたので、原則給食というものもあるとなるとさらに混乱しているという状態です。
委員長	途中で変えられるようにするかどうかというのもきっと事務局の方が検討される課題になってくるとは思うので、今無償化になるかどうかはわかりませんから。期限というカリミットも、どの時期にどれぐらいまでは考えておかなきゃいけないというのはあるんじゃないでしょうか。
事務局	今の調理業者との契約などもありますし、センターを立てた結果何食作るのかもあるので、その辺が結局どうなるかによって変わってきます。全員制であれば全部を賄わないといけないけれど、選択制であれば全員が給食を選択することはないので、一万食を作れる体制を作っておく必要はなく、いいところで今の半分以上なのでそのぐらいの調理場で良いという話になるため、その辺の兼ね合いがどうしても出てきてしまうところがあります。強制的に原則給食でも頼むことがベースなので、ほぼ全員制と変わらないかなと思っていて、なので原則給食と全員制は、実はあまり事務局的には違いはないと思っています。

	横浜市が原則給食とうたっているのですが、市長としてはもう全員給食と言っている形になるので、ただ仕組みとしてはどうしても頼めない子がいるから原則給食ですよというふうに文言として言っているような感じです。 あとは隣の鎌倉市も原則給食というのを最初の方針に掲げて、その結果8割ぐらいの生徒が頼んでいるんですけど、原則給食ですよというふうに掲げた結果やはり喫食率が高いというの也有ります。 なので、選択制と全員制は違うのですが、全員制と原則給食はあまり違いはないと事務局では考えています。
金田委員	現状を維持するとなると、上から1番目の現状の状態でできてしまうけれど、のちのち全員制や原則給食になった場合に、また新たに委託するのはすごく難しいから委託をする可能性があるならば続けなくてはいけないとなると、上から2番目のデリバリー方式 6,000食+デリバリー方式（調理委託）4,000食をしていくしかないかなと正直思います。すぐ取り組めて、学校現場としても受け入れやすくということだと、上から2番目が安心というか、先々変更しても対応がしやすいのかなと。
近藤委員	金田さんに加えて、現状として、日課を変えずに中学校で、全員で給食を運び、全員に配って喫食することは可能、不可能どちらでしょうか。
金田委員	配膳員さんがどう動いてくれるかなど。
東海林委員	日課は変えると思います。でないと厳しいと思います。それこそ5分を捻出するのも厳しいというのが答えかなと思っていて。極端に15分、20分丸々変えなきゃ無理だとかというのは分からないところですけども、見積もってみて10分は前後すると思うので、日課表は変わると思います。全員制にすれば食缶でもデリバリーでも変えざるを得ないかなと思います。
金田委員	でもデリバリーの方が少しで済むということですかね。
東海林委員	まだ時間的には短い方なのだろうなと思います
金田委員	学校の規模も全然違い、人数の多い中学校もあるので、そもそも全部運び込むスペースが今の段階であるのかなと思っています。食事の内容を見ると、デリバリーの方がすごく品数が多くて、食缶になった写真と比較すると、ものすごく違って食育という面でも実はデリバリーでもいろんな食材をいれてくれているのはよく分かったの、その辺どうでしょうか。結局、食缶にすると、温かいけど品数が減ってしまうという。
中澤委員	デリバリーでも、食缶方式でも同じ基準に基づいて献立は立てていて、栄養価的には問題ないのですが、食材の数が減るとかそういうのはあるのかと思います。ただ、やはり現状デリバリーだとスープとかは本当にちょっとしかないので、食缶方式にすればお椀が大きくなるので量が増えます。なので、ソフト麺とかは今、多分食べにくいのですが、小学校のように食缶でお椀に入っていればおつゆがいっぱいあって食べやすいとか、カレーとかそういうものも食べにくさがなくなるというのもあるし、量も増えるし。食缶方式にすると量を個人個人でおかわりもできますし、減らすこともできますし、温かいというアンケートでこういうふうになっていたらいいなということが解決できるのは食缶方式かなと思います。ただ現状、今日見てわかるように、藤沢は全校まとめて

	食缶方式ができないので、食缶方式にした場合でも、デリバリーの学校と食缶方式の学校が出てしまうことを考えると、やはり市内で両方デリバリーと食缶があって、日課もその学校によって変わってしまうという状況がやはりあまり良くないのかなと思うので、どっちかに統一するとなるとデリバリーしかないのかなと。デリバリーでも全員制か原則給食になれば、みんなで同じものを食べるので食育についても、給食で使っている食材について地産地消や、ダイエットにいいヘルシーな食材、これは嵩があるけど栄養価が少ないからダイエットにいいですよとか、タンパク質が多いから筋肉作りたい人はこれ食べるというところにも、毎日の給食のお手紙等で知らせることができるので、みんなに同じようなお知らせができます。そうすると今回の「特にない」というのではなく、毎日毎日のそういうお知らせ等を読んで、放送だけでも聞いていけば目に入ってくると思うので、そういうところで少しずつ給食で、こういう食材がヘルシーなのが分かりましたとか、こういう食材を食べれば筋肉がつくとか、体大きくなるとかが分かりましたというのが自然に身につくと思うので、やはりみんなで同じものを食べるというのがすごく大切なことかなと思います。方式はどちらでもいいですが、私としては選択制ではなく、全員制、原則給食制でやっていただけると、食育は小学校から続けて9年間継続した食育が今からできてくるのかなと思います。やり方等は決まったところから中学校に負担がないやり方はどうすればいいか考えていければいいのかなと思います。
委員長	上手にまとめてくださってありがとうございます。確かに食育という視点で選んでいくのか、それと選べるという自由意志を尊重する、主体的に動くといったところを重んじる教育をしていきたいのか、それによっても選択制にするのか、全員制又は原則給食にするのかといったところも違ってくるのではないかなと思います。本当に決定的なものもなく、いい機会ですし、全員制または原則給食というのがいいなと前回の委員会過ぎてから思っていたのですが、1ヶ月前ぐらいからはもう中学生で自分の意思をしっかりと表に出さなくてはならない時期でもあるし、理由はそれぞれにしても、選ぶということを残すことにも意味があるような気がしていて、私も実際1週間ぐらい迷っていました。まだ義務教育の間は統一した給食、食育っていうものを貫くというのがいいのかなっていうふうに今日は思っています。それでもまた揺れるかもしれないといったところです。その先にどの方法、方式にするかというのはそれぞれの良いところ悪いところを表にさせていただいたように、本当にそれぞれの好き嫌い、好みのようなもの、あるいは直感的にどっちを選ぶという部分で、選んだとしてもそれぞれ乗り越えなければいけない課題がいくつもあると思うので、そのところを十分拾い上げて、あらかじめ考えて、できる限りの仕組みを作り上げて、それで進めていくということが必要なのかなと思います。今日は結論をどちらかにしなければいけないとか、そういうのではないですよ。思いの丈を外に出していただきましたけれども、これを集約していただいて、次回の委員会で実施形態、方式の方向性をある程度現実的な予算の面ですとか、期限リミットがどこまでかというところももう少し見えてくるかなと思いますので、何かそういったあたりで方向性を示していただければと思いますけれどもよろしいでしょうか？ 言い足りないことなどありますでしょうか？
東海林委員	方式は結局6個あるのですが、このまま残したままでしょうか。というのも先ほど中澤さんが言われた食缶とデリバリーで学校によって違うというのは、正直ありえないので、これは仮に全員制、原則給食になったとしてもないのかなと思います。あと、親子方式が入るのか、実際問題、多分前回中学校の給食を

	入れても小学校の給食ができるのかということを検討すると難しいとなっているのに親子方式を残しておくのは現実的なのかな？とは正直思います。
事務局	次回自校方式と親子方式の実現ができるかというところを、今実際に業者を使いやれるのかどうかを調べていますので、それを次回お示ししようと思います。あとは費用面なども算定します。
柳澤委員	選択制と全員制は一旦置いておいて、食缶とデリバリーでの残飯量の差が知りたいのですが。
事務局	小学校と中学校でちょっと違うのですが、藤沢市の小学校の残食率が約6%で、中学校が約10%です。中学校の残食率の県平均が約10%で、県よりも藤沢市は少し低いぐらいの数字という現状です。小学校は県内平均でいうと5%ぐらいなので藤沢市は少し高いです。
委員長	おそらく今の質問は、デリバリーと食缶で残食率が違うのかということですよ
事務局	小学校は食缶方式で、今はそれでしか残食率は出せないです。中学校でいうと、例えば他市町村で食缶をやっているところで同じ規模の県内自治体を確認したところ、大体10%ぐらいだったのであまり違いがなかったことは分かっています。
委員長	中学生になると食缶だろうがデリバリーだろうが残食率は10%ぐらいということですよ。
金田委員	中学生は単純に時間があつたらたくさん食べそうな気がします。小学校と同じ時間で同じ調査をしたら多分もっと上がると思います。時間がなくておかわりできないみたいで、今のデリバリーでうちの子も時間がないからご飯おかわりがあるけれど食べられないというので、そういう違いももしかしたらあるかもしれません。
東海林委員	前回の会議のときに、保護者の方から量の調整の話があったと思うのですが、今大盛しかない中で小盛に変えるというのは今後変わっていく中でできそうなのでしょうか。あとソフト麺ですとか、ご飯だけじゃない他のものも量を増やして欲しいという子も中にはいるのかなと思うんですね。それこそカレーだけ量を増やしてほしいとか、好きな汁物は量を増やしたいだとか、そういういろいろなものに対しての量の調節というのが今後可能なことなのかというのをちょっと思っています。それで量を減らして時間内に食べられるのであれば、食べる時間がそのままでもしかししたら何とかなるかもしれないですし、実際ってどうなんでしょうか。
事務局	もし食缶方式になるのであれば量の調整は容易にできると思います。デリバリー方式だとやはりどうしても盛りきってそのまま運ぶという方式なので制限はあります。今、量が多いから頼まないという意見もありますので、ご飯の小盛については、検討をしている段階ではあります。
東海林委員	逆に大盛の方はまだということですよ。例えば、汁物を多くしたいというような生徒がうちの学校だと結構いっぱいいます。ご飯を2杯、3杯食べたい子

	もいるけれど、汁物が好きだからとか、牛乳 3 本飲みたいというようなそういう子たち用にプラスというような、どちらもというのはまだ検討中ということですよ。
事務局	そうですね。
中澤委員	今回の説明に横浜は汁物だけ食缶方式というのがあったので、そういう希望が多いのであれば藤沢も導入するときに、汁物だけ食缶となれば量の調整ができます。ただ配る時間がかかってしまうのでということはあるのかもしれませんが。
委員長	そういう内容であるとか実際の細かいところは、ぜひ一つでも出た意見を吸い上げていただき、検討していただいて、可能な限り、費用の面が大きく関わってくると思いますのでご検討いただくということで、今日出た意見を少しまとめていただいて、次回ある程度の方向性に近づけたものをお示しいただければと思っております。 では、議題が 2 つ終了したということでよろしいでしょうか。 最後に議題 3 その他で何かございますか。よろしいですか。 そうしましたら次回の委員会の日程を決めたいと思うのですが、9 月 2 日火曜日の午前か午後はいかがでしょう。 午後ですと今日ぐらいの時間で。
近藤委員	校長会です。
加瀬委員	私も藤中研があるので、16 時半でもよければ。
事務局	また改めて調整します。
委員長	では日程調整は事務局の方から連絡が入ると思いますので、ご回答いただいて調整いただきます。それでは本日はここまでで、次回よろしくお願いいたします。今日はどうもありがとうございました。
全員	ありがとうございます。
	以上